

J C I 高槻 中長期ビジョン2023～2027 多彩な個性が織りなす共生社会

1. はじめに

【中長期ビジョンとは】

青年会議所は、綱領に示されているように、「明るい豊かな社会の実現」を基本理念としています。この理念は永劫不変のものとされていますが、「明るい豊かな社会」は、その時代や社会情勢に応じて常に変化していくものとされています。

高槻青年会議所は、これまで5年ごとの節目毎に中長期ビジョンを策定し、時代に即した運動を展開してまいりました。本年度55周年の節目を迎えるにあたり、「55周年から60周年に向けての提言書」という形式のもと、今後5年間の指針として中長期ビジョンを策定いたしました。

【中長期ビジョンと理事長所信】

青年会議所は1年毎に組織や役職が変わる単年度制をとっていますが、各年度の理事長が中長期ビジョンに基づき、具体的な当該年度の運動指針として示されるものとして「理事長所信」があります。そして、理事長所信に示された組織や機能・役割をもとに、会議体・委員会等の役割ごとの運動方針である「基本方針」が定められ、この基本方針に基づいて具体的な運動展開がなされます。中長期ビジョンを策定することで、単年度制である青年会議所の運動方針が年度毎に大きく変化することなく、連続性を持った運動を展開することができます。

【中長期ビジョン策定にあたっての社会背景】

<人口減少・超高齢社会>

現在の日本は、世界に先駆けて高度な高齢化に伴う人口減少社会に直面しています。特に、2025年問題と呼ばれる団塊の世代が後期高齢者となる超高齢社会が目前に迫っており、2010年より続く人口減少と相まって、社会の活力が失われていく状況にあります。

<経済の停滞>

1995年～2015年までの20年間、世界各国の名目GDPが成長し続けた反面、日本は唯一のマイナス成長となりました。少子化の解決が見えない中で、国内需要の減少による経済の停滞が続いていく状況にあります。

<環境問題>

温室効果ガスによる温暖化の進行に伴い、豪雨災害や猛暑などの異常気象のリスクが今後も続くと予想されています。他にも、大気汚染や土壌汚染、海洋プラスチックの問題など、

環境問題の課題が山積しています。

このような社会背景のもと、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を日本一推進する団体を目指す青年会議所としては、SDGsの推進の取り組みの中で、日本が抱える様々な問題に真正面から向き合っていく必要があります。

また、これらの問題は日本全体だけの話ではなく、我々が活動する高槻市・島本町においても同様です。我々が真に地域から必要とされる団体であり続けるためには、大局観を持ちながらも、地域の1つ1つの課題に丁寧に目を向けた運動を広く展開していくことが必要であると考えます。

2. ビジョン

「多彩な個性が織りなす共創社会」

多彩な考え方・価値観を持った地域の人・企業・団体が、対話や協力によって、社会課題にアプローチし、共に新たな価値を生み出していく地域社会

- ①多彩な → 多様の言い換え。種類が多くて華やかなイメージ
- ②個性 → 地域に住む人だけに限らず、企業や団体も含むための表現
- ③織りなす→ 複数の要素を組み合わせで創り出す
- ④共創社会→ 対話や協力によって、共に新たな価値を生み出していく社会

3. 5つの柱

①社会

1-1 多彩な主体との連携強化

産業界・官公庁・教育機関・民間諸団体などの多彩な主体と協力し合い連携を強化することで、一人ひとりが当事者としての意識を高め主体的に地域課題に向き合い、課題をともに解決するパートナーシップ強化の機会を創出します。

1-2 地域の活性化と魅力発信

歴史・文化・自然・産業など地域の多彩な魅力ある資源を地域内外へ発信し共感を生むことで、それらの価値をさらに高めていく運動を展開します。そして、地域に関わる人々のシビックプライドを醸成することで、一過性ではなく、地域で成長し続ける持続可能な価値を創出します。

1－3 主権者教育の推進

より良い未来を築くためには、国民全体が単に政治の仕組みや知識を習得することに留まらず、国や地域の課題を自分ごととして捉え、社会を構成する一人として、自ら考え、判断し、主体的に行動する力を身につける必要があります。我々は投票率の向上を目指すとともに、学校・家庭・行政・地域が互いに連携・協働し、現実にある地域課題を自らの問題として捉えるための学習活動や体験活動に取り組む主権者教育を推進します。

1－4 ソーシャル・インクルージョンのまちづくり

年齢・性別・国籍・障がいの有無・価値観等にとらわれず、多彩な人々がそれぞれの個性を発揮して社会に参画し、多様性を認め合いながら、住み慣れた地域で安心して豊かさや幸福を追求できる社会の実現を目指します。また、あらゆる人がソーシャル・インクルージョンの考え方に共感することで、それぞれがつながり、支え合う意識を醸成する運動を展開します。

②人材

2－1 日本や地域への郷土愛の醸成

国と地域の持続的な発展のために、自身が生まれ育った日本や地域への見識を深め、郷土への愛と誇りを醸成する運動を展開します。

2－2 グローバル人材の育成

異なる国の文化や価値観を尊重し違いを認め合うグローバル・ダイバーシティの理解を促進し、語学力向上だけに留まらない国際感覚が豊かなグローバル人材の育成に取り組みます。

2－3 文化・スポーツを通じた青少年の健全育成

人生をより豊かで充実したものとするとともに、礼節や他者への思いやりを学び、子供たちの道徳心を養うために、文化・スポーツを通じて青少年の健全育成に取り組みます。

2－4 課題創造型人材の育成

現代のようなグローバル化や情報化の進展により将来予測が困難となった時代においては、課題自体が見えづらくなっており、多様性を包摂する環境の中で課題を自ら設定する能力が求められます。社会の閉塞感を打破し、希望が溢れる未来社会を実現していくために、これまでの常識や当たり前だと考えられていること、顕在化していない問題に対しても、自ら積極的に課題を設定し、解決に取り組む課題創造型人材の育成に取り組みます。

2－5 生涯学習の推進

人生100年時代を迎える中、誰もが充実した豊かな人生を送るために、知識・技術の習得だけにとどまらず、スポーツ・文化芸術活動・社会貢献活動など、学習を伴うあらゆる活動を対象として、幼少期から始まる人生のあらゆるステージにおいて学び続けることができる生涯学習の取り組みを推進します。

③組織

3-1 多彩な仲間による組織づくり

変化の激しい時代に対応し、新たな運動を発信し続ける強固で柔軟な組織づくりのために、様々な個性や価値観を持つ多彩な仲間の拡大に積極的に取り組みます。

3-2 会員の成長を促す組織運営

個人としても組織としてもより一層地域の課題解決に取り組むために、研修制度の充実や出向の機会の積極的な提供など、会員の成長を促す組織運営を行い、地域で輝くリーダーを育成します。

3-3 組織ブランディングの向上

地域課題の解決に取り組む青年会議所運動に対する共感を生み、地域から信頼され必要とされる組織であり続けるために、時代や状況に即した最適な運動の展開と発信を行うことで、組織ブランディングの向上に取り組みます。

3-4 活動しやすい環境づくり

創立以来受け継がれてきた組織の根本は変えることなく、時代や状況の変化に応じて、適宜適切にルールや組織体制を見直すことで、多彩な価値観を持つ会員が前向きかつ積極的に青年会議所で活動することができる環境整備に取り組みます。

3-5 パートナーシップの構築

我々のみで地域の課題解決に取り組むのではなく、同じ目的を持ち、異なる強みを持つ行政や地域の企業・団体と強固なパートナーシップを構築することで、それぞれの特性を活かしたより良い運動を地域に展開します。

④環境

4-1 防災・減災への取り組み

市民に対して防災・減災への意識を高める運動を行うとともに、関係機関や各地青年会議所とのネットワークを活かした「自助」「共助」「公助」の円滑な連携を図ることで、災害に強いレジリエントなまちづくりに取り組みます。

4－2 環境問題への意識醸成

国内外の環境問題を啓発する機会を創出することで、一人ひとりの環境問題に対する意識を醸成します。また、環境問題に係る取り組みを通じて、持続可能な環境づくりを推進します。

4－3 資源循環型社会の推進

5R（リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペア）を推進し、ごみの発生抑制や再利用に対する市民の意識を高めるとともに、食品ロスの削減や脱プラスチックの取り組みなどを広めることで、資源循環型社会を推進します。

⑤経済

5－1 多様な働き方の推進

変化の激しい時代に対応するためには、様々な考え方や価値観を持った人材を受け入れることが求められるため、市民や事業者に対して多様な働き方への理解を促す取り組みを行います。特に、高齢者や女性、障がい者の労働市場での活躍を推進し、人口減少社会における新たな働き手の活躍による企業の成長・発展を目指します。

5－2 次世代のリーダー育成

学生を含む若年世代のスタートアップの支援など、イノベーションを生み出しやすい地域づくりを行うことで、地域とともに活躍する次世代のリーダー育成に取り組みます。

5－3 DXの推進

あらゆる業種・業界において先端デジタル技術のアシストを受けられる社会インフラの構築のために、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組みます。

5－4 大阪・関西万博を契機としたまちづくり

地域の企業・団体の発掘やさらなる成長を目指し、2025年に開催を予定している大阪・関西万博を契機としたまちづくりに取り組みます。

4. おわりに

中長期ビジョンを策定するにあたり、社会全体の問題を捉えつつ、どのような高槻市・島本町を未来の子供たちに残していきたいのか、そして高槻青年会議所自体が地域の中でどのような存在価値を残していきたいのかを考えました。

我々高槻青年会議所は、これまでも「明るい豊かな社会の実現」を目指し、地域に希望をもたらす変革の起点として地域課題に真正面から向き合い、様々な運動を展開してきました。

こいのぼりフェスタ 1000 や高槻ウェーブなど、歴々の先輩諸兄姉の運動によって、いまでも地域に根付き、地域住民に愛される事業や取り組みが数多くあります。これからも高槻青年会議所が地域に真に必要とされる団体であり続けるためにも、社会の潮流を的確に捉えながら、今回策定した中長期ビジョンをもとに時代に即した具体的な運動を起こしてまいります。

青年会議所が取り組むべきは「運動」であり、我々の取り組みがきっかけとなり、人や団体の共感を呼ぶことで、その運動が波及していき地域に大きなインパクトを与えようと考えています。我々が活動する高槻市・島本町にはアクティブシチズンが多く、非常に活気のある地域だからこそ、青年会議所だけが行動を起こしてまちの課題解決を図るのではなく、地域で活躍する多彩な個性を持つ人・企業・団体とともに、それぞれの想いと力と知恵をあわせて共に課題解決に取り組む地域、つまりは「**多彩な個性が織りなす共創社会**」を創ることで、明るい豊かな社会の実現を目指してまいります。